

INDEX 政策委員会ディスカッション

認知症患者を医療に導く一つの方法 (北海道認知症の人を支える家族の会の紹介を兼ねて！)

政策委員（白石区支部） 梶原 昌治

1) 馴れ初め

足掛け5年を越えるかもしれません。かでの2・7の4階に事務所を構える「北海道認知症の人を支える家族の会（以後「家族の会」と表現する）の西村さんを訪ねて以来の月日です。白石中央病院に勤めるようになって、変な？行動をするお爺さんやお婆さんがいること、そして認知症と診断される人たちが結構いることに気が付きました。勿論、報道で認知症の問題が大きく取り上げられるようになった時期と重なっていたことも、あるいは痴呆症から認知症と呼称が変わったこともあって世間が認知症と向き合いだした時期であったことも小生が「家族の会」を訪ずれた理由であったかもしれません。先達たちが書いた本から知識は得られましたが、では、現実に、症例数を増やし、経験を増やすためには如何にすべきか？というのも間違いなく動機の一つでした。結果的に、月に一度のペースでの「家族の会」主催の無料医療相談を、ここ数年、続けております。

当初は、月に一度開かれる「家族の会」が主



図1：前列が事務局長の西村敏子さん、そしてカウンセラーの二人

- 北海道認知症コールセンター -
- 家族の会 -

札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階
TEL 011-204-6006
相談日：土・日・祝日・年末年始を除く毎日
受付時間：10:00～15:00

図2：「北海道認知症コールセンター 家族の会」（「家族の会」のサイトから転載）

催する“集い”に参加しておりました。この会は、ご家族だけが参加して、認知症の患者を抱えたご家族が介護を含めた様々な悩みを打ち明け、また、経験者からの経験談を聞くことで、介護の知恵を獲得する。これが“集い”の目的です。つまりグループカウンセリングが「家族の会」主催の“集い”ということになります。この年に一年間ほど小生が参加していたら、西村さんから、医療相談を行いたい旨ご相談があり、快く、承諾したというのが経緯となります。西村さんは、新しい試みをお考えになっていたらしく、“集い”に小生が参加していた期間は、西村さんから見て小生のお試し期間であったということになります！“集い”は、認知症の患者を抱えて悩んでいる人にとって、孤独感を解消するには大いに効果的な方法です。札幌市医師会の会員諸先生において、認知症の患者の介護で悩むご家族の方に、「家族の会」の“集い”をご紹介いただくのも認知症治療の一部とお考えになるのは合理的な御判断と思いません。

2) 無料医療相談の運営方法

ご家族に認知症の患者がいてお悩みの方が、

図2に記載しているコールセンターに電話を掛けます。相談を受けたカウンセラーが、話の内容から判断して医療相談の必要があると見做せば、相談者に医療相談を勧めることから始まります。西村さんが取り纏め、小生にメールで知らせてくる手筈になっております。但し、メールで知らされるものは、“今回は何名です！”という内容だけです。相談者の氏名は勿論、相談内容も一切知らされません。つまり、ぶっつけ本番です。この方法論をとるのは、医療相談で直前にキャンセルが発生すれば、本来、残るべきでない個人情報小生の手元に残ることになります。これを避けるためには、小生には、個人の情報になりうるものは伝わらないことが望ましいわけです！ここで念のために再度記載しておきますが、医療相談は「家族の会」の仕事の一部です。寧ろ、“集い”が本来の業務となるのでしょう。

3) 医療相談において何を重視しているか？

医療相談に来る以上目的があって相談に見えられるはず。診断名は何か？今の治療は適切なのか？関わりになった複数の先生の間でご意見が異なるのだが、それはどうであるか？こういったことから、法律上の問題で、認知症の発症がどの時点であるかを証明してくれ！というまで、実に様々です。この相談目的を明確にしてもらってから、「家族の会」の医療相談としてはふさわしくない目的であれば、その旨小生から伝えて、お断りした案件も2例ばかりありました。目的が「家族の会」の趣旨にかなうものであれば、さらに相談が進み、相談者が対象とする認知症の患者さんが日常の中で表す行為で異常と感ずることを縷々述べてもらうこ

とになります。このとき、聞き入るほうの小生は以下の諸点に焦点をあてております。

- 1) 注意障害とみなせる行動は？
- 2) エピソード記憶や地誌的記憶の障害はあるか、ないか？
- 3) 後頭葉・頭頂葉の障害を意味する幻視や視空間認知障害は？
- 4) いわゆる“黄昏症候群”はあるか？

こういった諸点に注意を払って相談者の話を聞きます。時として、こちらから、「こういったことはありませんか？」と質問を投げかけて誘導することも屢々です。但し、相談者の回答が具体性を帯びた内容でない限り、その回答は無視します。また、誘導をしすぎないようにも注意します。こういった諸点に留意して医療相談を行っております。認知症外来を持たない病院あるいは個人開業の場合、認知症の患者を介護している家族の方に相談されて当惑された経験があるのではないのでしょうか？医者といえども万能の人ではありません。こういったときに、社会に用意されている「家族の会」のカウンセリングを紹介されるのも一つの解答ではないのでしょうか？それから、アルツハイマー氏病は、病識がありません。従って、患者自身が、外来を訪れるというのは稀です。多くは家族が説得し、だまし、何とか近医に引っ張っていくというのが多くの症例ではないのでしょうか？連れてくる家族も患者さんご本人も尋常な精神状態ではないでしょう。そうであれば一気にまくしたてられて当惑したご経験など札幌市医師会の諸兄にはごさいませんか？そういったときには、「家族の会」のカウンセリングをご紹介ください。

(白石中央病院)